

今日もママは腕まくり

がねとゆき
金戸 幸
元飛込五輪選手



絵・ふわ こういちろう

私はいま、ナショナルコーチのスキルを磨く「ナショナル・コーチ・アカデミー」を受講している。前期と後期で8週間、さまざまな分野の講義が受けられて刺激的な日々だ。

最後の週はテスト週間になっていて、プレゼンテーションの試験がある。発表する題目をくじ引きで決めたのだが、私が引いたくじに「自身のコーチング論(哲学)」について」と書いてあった。この試験をきっかけに、これまであまり考えたことのなかった自分のコーチング哲学について考えなければならなくなつた。

人間力を磨く

メダルゼロという過去最低の成績で、「水河期」ともいわれた。私は日本水泳選手団の一員として、競泳の選手たちと同じ空間で過ごした。競泳の試合が先に終わり、飛込は大会後半という日程。明日が私の試合という日、競泳選手は帰国を翌日に控えて、どんちゃん騒ぎだった。

次の日、試合会場へ向かうために部屋を出たとき、目にしたのは彼らが残っていたごみの山だった。日の丸のついた支給品も平気で捨ててあった。その光景は、私の脳裏に強烈に焼きついた。

そのとき「将来、指導者になるなら、技術指導だけでなく『人』の中身も育てなければ」と強く思った。

競泳は、その「水河期」の教訓から、人間力育成という「教育」分野にも力を入れ、大きな巻き返しに成功した。いまや世界に通じるヒーローやヒロインが数多く生まれている。

「人間力なくして競技力向上はない」と、私は強く思っている。特にトップ選手は、周りの人たちに支えられて、その場に立っている。「あなただから応援したい」「あなたのためなら、どんなことでもサポートする」。人にそう言ってもらうためには、スポーツの成績だけでなく、「人としての中身」が重要になるはずだ。

そして、周りで支えてくださる人たちに心の底から感謝することができれば、きっと人生の次のステージでは「今度は私が受けた」恩をお返しする番だ」と、社会に貢献できる人に育っていくのではないか。

この世の中は、互いに支え支えられて成り立っている。今回の受講を通じて、自分の技術力向上だけでなく、私のやるべきことが、さらにはつきりしてきたように思う。これからも「人を育てる」指導者を目指していきたい。